

**本学習指導案のポイント（高校教育指導課 指導主事 宮本 洋子）**

本学習指導案では、サービス利用者に必要な排泄援助の方法を具体的に検討させ、成果や課題を共有することで、介助者が援助の目的を達成するためには、自立生活に向けた支援が重要であることに気付かせことができるよう工夫された授業展開となっています。

また、前時に提示していた事例の状況から、本時では追加の情報を提示して再アセスメントすることで、状況の変化に応じて援助を検討する必要生について学びを深められる工夫がされています。

- 1 実施日：令和8年1月16日(金) (3限目 10時55分～11時45分(50分))
- 2 学年・学級：1年3組17名(女子14名 男子3名)
- 3 単元名：(2)自立に向けた生活 キ 排泄の支援
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）福祉「生活支援技術」2内容（2）自立に向けた生活支援 キ 排泄の支援に位置付けられる内容である。本単元では、サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な排泄の支援について理解するために、排泄の意義や目的、快適で安心できる排泄行為を支える支援方法と留意点などについて実習を含めて学習する。また、プライバシーの保護や尊厳の保持に配慮した排泄の支援について理解を深めるとともに、ポータブルトイレやおむつ、失禁、便秘や下痢、人工肛門、浣腸、導尿、機能低下や障害が排泄に及ぼす影響について理解させることをねらいとしている。

(2) 生徒観

生徒は福祉科の1年生で、将来は福祉や医療に関わる職に就きたいという明確な目標をもつ生徒が17名中15名おり、専門職を目指す意識が深まっている。入学後、「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「こころとからだの理解」「介護総合演習」「介護実習」の専門科目の学習を行っている。授業では、互いに協力しながら学習に取り組むことができるが、受け身の姿勢の生徒が多く、積極的な発言は少ない。指名すると自分の考えを整理し、発言することはできる。「生活支援技術」では、実技の実習に興味・関心が高く、意欲的に取り組む姿が見られる。「介護実習」では、これまでに高齢者施設で8日間（2日間は見学実習、6日間は基礎実習）、障害者施設で1.5日間の実習を行っている。実習先では、トイレ誘導や排泄介助の見学を行い、数名の生徒は、職員の指導のもとでおむつ交換やトイレ誘導の介助を実施している。また、冬休みの課題でおむつの中への排泄体験を行っており、羞恥心を感じたり物理的に横になることでの排泄がしづらいことを体験している。この課題を通して、生徒自身トイレでの排泄の大切さを感じていると思われる。

(3) 指導観

介護者は、サービス利用者の自立生活に向けた安全で安楽な支援、心身の状況や生活の場の違いに合わせた支援、プライバシーの保護や尊厳の保持に配慮した支援ができるようになることが求められている。そこで、サービス利用者をイメージしやすい事例を用いて、具体的な支援について考えさせ、自分の考えを言語化し他者に伝えることで思考を深めさせたい。個人ワークで個人の考えを整理し、グループワークを取り入れて対話的な学びが深まるよう展開を工夫したい。グループワークを行う際には、MetaMojiを活用し意見交流させ情報共有することで、個人の学びが深まるよう指導を行いたい。

5 単元の目標

- ① 自立に向けた生活支援や安全で安楽な支援などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。(知識・技術)
- ② サービス利用者の自立生活に向けた支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。(思考・判断・表現)
- ③ サービス利用者の尊厳を保持した自立生活について自ら学び、主体的かつ協働的に解決に取り組むことができる。(学びに向かう力)

6 単元の評価規準

知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
排泄の自立に向けた生活支援や安全で安楽な支援などについて理解するとともに、排泄介助に関連する技術を身に付けている。	排泄に関するサービス利用者の自立生活に向けた支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	利用者の心身の状態に応じた安全で安楽な排泄の支援について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画 (全 10 時間)

次	学習内容 (時数)	評価				評価方法
		知	思	主	評価規準	
2	排泄の意義と目的	◎			排泄の自立に向けた生活支援や安全で安楽な支援などについて理解している。	授業プリント
6	排泄の支援の技法 本時 2 / 6	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の思いをくみ取ったうえで、状況に応じた排泄の場や用具と技法について理解している。</li> <li>・事例をもとに排泄に関するアセスメントを行い自立支援に向けた支援のあり方と課題を発見し表現している。</li> <li>・排泄の支援の技法について自立生活に向けた支援を理解し、具体的方法について課題を発見できる。</li> </ul>	授業プリント 授業観察
2	おむつ交換 校内実習		○	◎	おむつ交換するために、安全で安楽な介助や羞恥心に配慮した介助について思考し表現している。	授業プリント

8 本時の展開

(1) 本時の目標

自立生活に向けた安全・安楽な排泄支援の方法について考え表現することができる。

(2) 観点別評価規準

知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	排泄に関してサービス利用者の自立に向けた支援の在り方や課題を発見し、支援方法を表現している。	

(3) 準備物

教科書、プリント、プロジェクター、パソコン

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
導入 5分	1 前時で扱った事例の振り返りを行う。 2 本時の目標を把握する。	◇前時で整理したワークシートを振り返らせる。		
展開 40分	<p>【事例】トイレまでの距離が遠く感じ、廊下の照明も暗いため、不安を感じている。過去に一度、夜間トイレに向かう途中でバランスを崩し、転倒しそうになった経験があるが、「大ごとにしたくない」という思いから職員には伝えていない。</p> <p>3 利用者一人一人に応じた夜間の排泄支援を行うために、4つの視点に分けて追加情報を整理し、赤字で記入する。</p> <p>4 利用者の夜間の排泄支援の方法とその理由を考える。(個人ワーク)</p> <p>5 利用者の夜間の排泄支援の方法とその理由を考える。(グループワーク)</p> <p>6 排泄支援の方法とその理由をグループごとに発表する。(全体共有) 他のグループの発表は各自のプリントに記入する。</p> <p>7 他のグループの発表内容を踏まえ、利用者一人一人に応じた自立生活に向けた安全・安楽な夜間の排泄支援の方法と理由について再度思考する。(個人ワーク)</p>	<p>◇前時で整理した情報(ワークシート)に、追加の情報を赤字で記入させる。 ◆どのように書いたらよいかわからない生徒に対しては、「太字になっているこの言葉は、どの項目に入る」など声掛けを行う。</p> <p>◇排泄支援の方法と理由を考えさせる。 ◆書き出せていない生徒には、前時で行ったプリンや教科書を確認しながら書くように声をかける。</p> <p>◇各自が述べた排泄支援の方法を踏まえ、グループで最もよいと考える排泄支援の方法と理由を決めさせる。 ◇使用する用具があれば、その用具名や用いる理由を考えさせる。</p> <p>◇グループ発表は、MetaMoji を使用し排泄支援の方法と理由を発表させる。 ◇他のグループの発表内容を各自のプリントに記入させる。</p> <p>◇全体の発表を聞いてから、もう一度個人で夜間の排泄支援の方法と理由を検討させる。 ◇他の意見を取り入れて、どうだったかを記入させる。 ◆書けない生徒がいれば、グループで話し合ったものをベースに考えるように伝える。</p>	【思・判・表】ワークシート、発表 排泄に関してサービス利用者の自立に向けた支援の在り方や課題を見し、支援方法を具体的に思考し、表現している。	
終結 5分	8 振り返りを行う。 9 次時の内容を知る。	◇排泄支援の方法は利用者にとって重要なことであり、一人一人の状況に応じて、利用者のことを可能な限り思い、考え関わることが大切であることを伝える。 ◇今回は、排泄介助の物品の使い方を学習することを伝える。		